《踏み絵》ビラへの① 私の意見

社会タイムス 9/10

本紙一月十三日、二十七日号で掲載した〈踏み絵〉ビラの記事に対して「嫌悪感を感じた」「痛快」と、じつにいろいろな反応が起こっています。本紙は、これをよい機会として、紙上でのいろんな意見をぶつけ合い、より実のあるものにしていきたいと思っています。今回は三人の方から、「批判的意見」をのせます。次号に「反論」の投稿原稿を予定していますが、批判、背景を問わず、本紙へ投稿して下さい。なお、討論のルールとして、当然のことですが、主義打撃ではなく、相互の生き方、立場を尊重して、より豊かなものにしていきたいと思います。なお、編集部としても積極的に参加していきます。

人の写真踏んで喜ぶのは低俗な遊び

新年の社タイの一面に、天皇の写真に黒枠をつけた〈踏み絵〉ビラがのり、とても残念に思う者です。

平和運動を支える社タイが、人が人を傷つける行動を支持してよいのでしょうか。天皇も人間なのです。そして憲法で天皇は国の象徴としての枠内で扱われるべきであり、それ以上でも、それ以下でも、結局は平和憲法に傷をつけることになると思います。

平和憲法の第九条「戦争の放棄」や、その前文は、世界に誇れるすばらしい内容をもち、これを戦争抵抗者インターの方なら、もっと大切に考えてほしいものです。

また、このビラ作者の「アリコ・森永犯」まがいの、不動慎な大阪府警への態度は、とても支持できるものではありません。

このようなビラを配った人や踏んだ人の心に、いったい何が残ったのですか。むなしさは感じないのでしょうか。人の写真を踏んづけて喜ぶという低俗な遊びから、何が得られるものでしょう。

戦後生まれの人の方が多い時代になってきた今日、大切なのは、再び軍部に利用され、戦争にかり出されない決意であり、天皇個人を傷つけるのはナンセンスだと思います。もっと地道な、建設的な行動をくり返していく努力が必要だと思います。

真の平和主義を貫くということは、自らの心のいっさいの憎しみの情を捨て、愛と正義のために働くということではないでしょうか。

（京都・K）

キリシタン迫害の歴史を思い出した

社タイの一月十三日、二十七日付の天皇の写真の踏み絵のビラ事件は、読んでいて不愉快だった。生まれた世代によって天皇への想いは千差万別であると思う。戦前派や明治生まれの方はきっと腹を立てられるだろう。私は戦中派で十五年戦争の中で成長したのであるが、やはりいい気持ちはしない。天皇を利用して合戦して来た軍部は、国民に「天皇の為」と思わせ愛国をたたきこみ、この為に何百万の人々が戦争で死んで行った。天皇制に対して私は反対である。戦後、天皇が日本の象徴になられ、人間宣言なさって本当に良かったと思っている。

日本人の心に深くひそむ天皇への敬愛の情を利用する勢力が今もある事を知っている。だからといって、天皇の写真を踏まそうとするビラまきの行為には反対である。遊び心とか冗談に思っていられるようだが、ここまで来ると悪趣味を通り越すのではないだろうか。神社とか映画館で知らずに踏んだ人々の気持を考えてほしい。こんないたずらをしなくても天皇批判は堂々とすればよいと思う。

この事件を読んで私はキリシタン迫害の歴史を思い出した。キリストやマリアの像や御影を踏ました権力者の卑劣さ。生きるために涙をこらえていやいや踏んだ信者もあったし、信仰を貫くために、踏まずに殉教した人もあった。もし私が映画館で知らずに天皇の写真を踏んだとしたら、私はきっと自分の魂を汚した思いがするだろう。天皇を批判していても写真を踏む程その人を憎む事は出来ない。このような卑劣ともいえるビラはやめてほしい。社タイ紙上で賛同しているような記事のせ方は果たして正しいのだろうか。

私は時代おくれなのかもしれないが、このような事が逆効果を生み、警察を刺激して民主的な運動への弾圧につながるのではないかと心配している。誰もが緊張の中で大っぴらに広げて読める社タイであってほしい。また、年よりとか、皆が共鳴出来る社タイであってほしい。反論があると思うが私の意見である。（大阪・M・T）

あくまで正攻法で

私たちも正月に集まったとき、この問題をめぐって論議しました。天皇側をめぐっての支配権力側の対応が弾圧的になっていることについての私たちの側の闘いが、全体的に弱くなっていることは事実ですが、その闘いの進め方については私たちの場合は、正面から正攻法で、という意見が多数です。

具体的には、学校における日の丸、君が代の攻撃をひとつひとつ批判し反対していく、そういうところから粘り強く闘っていくほかないという考えです。

（名古屋・OK）

《踏み絵》ビラへの ② 私の意見

（社会タイムス）2/17

「天皇も人間」ってアジアの人に言えるんやろか

「極悪非道な殺人が起こったらどうするねん」という声に支えられ、死刑制度が温存しているのと同様に（天皇自ら、私は人間ですと言ったことがないにもかかわらず）、

「天皇も人間です」

「かつての戦争のときは天皇も利用されたんだ」

「今は天皇も唯の象徴で害にも益にもならないんだから」などという声にもまた支えられ、天皇も天皇制もずっと生きのびているんやなア、と思いながら、踏み絵ビラに対しての批判をよみました。

以前、写真入りの立派な石川さんの救援のビラが駅構内のあちこちに落ちているのを見ました――その上をまったく気にもとめず、下を見ることもなく通る人をながめながら、いままで何枚のビラがこんな運命になったことかと、そう、どこかの誰かさんの写真であれば、目にもとまらずゴミ箱へ直行で、天皇のときのように、下を向いたり、指さしたり、ひろっていたり、また社会タイムスにのっていた批判のように、日本人の神経を逆なですることもなかったやろうと思います。やれ皇後だとか、同じ人間だとか、生物学者だとか、スタイルはいろいろ変わるけれど、戦前、戦中と同様、どこかの誰べえさんの何億倍もの生活費と土地を使って、あがめたてまつられている正真正銘の天皇。絶対に、私と同じ、どこかの誰べえさんではないのです。

東アジア反日武装戦線の人たちが天皇を殺そうと企てただけで、実行していないにもかかわらず、かつての大逆罪と同様、ちゃんと判決の主旨の中にはいってたり、この踏み絵ビラのように、不敬罪同様のことが起こったり、いまも昔も同じ天皇やということだと思うのです。

いままで、踏まれ、ゴミバコへ直行した、反戦の、反原発の、救援の、その他、数千万のうかばれないビラの思いをたくし、「そんなにビラを踏んずけるなら、踏んずけてみろ！」と落とすあの踏み絵ビラ、――最高ケッサクのパロディではないか、低俗でもナンデもけっこう、大衆はこういうのが大好きなんや、戦前、戦中も、ヒソヒソと天皇のをおちょくるパロディがたくさんあったとか、こういうビラが物議（ぶつぎ）をかもし出すようでは、天皇も安泰で、オリンピックでガンバレ、ニッポンなどと言っているうち、ガンバレ神国ニッポンとスリ変わってるのも、そんなに遠くないのかもしれない。

天皇を、日本人を殺しても、殺したりないほどのめにあわせてきている。朝鮮の、中国の、他のアジアの国々の人を前に日本人は「天皇も人間です」というんやろかと思う。

私は、グリコ犯が、いつか宮内庁御用達の無公害の自然食に、毒を入れる夢を描きつつ筆をおきます。

（岡本伊津子）

一緒に「菊タブー」打ち破りませんか

私たち日常であまり天皇制と深いかかわりを持って生活していないと感じる者にとって、天皇とか天皇制というのは何か厳粛な、儀式張った、またはおっかない近づきがたいものの様におもえます。そしてこう言う感覚が天皇制を「下からささえる」大きな柱のひとつになっているのではないでしょうか。マスコミや政府宣伝機関につらなる言葉のわざとらしい「菊タブー」とは別の「自然な菊タブー」とも言えるものです。

私が天皇制に反対なのは戦争責任をうやむやにしたりする天皇を存在させるものだからというだけでなく、生活の奥深くからしみ出たこの「自然な菊タブー」のあらわれとして天皇制があるからです。だから生活の奥深くの「自然な菊タブー」を打ちこわす事こそが天皇と天皇制を根本的にひっくりかえす戦略であり戦術だと思います。

《踏み絵ビラ》は、この点からするとだれでもかんたんに「天皇や天皇制が存在する事に関わるいやな気分」を自分と他人に想起させる、とても挑戦的な反天皇、反天皇制闘争だと思います。

天皇とか天皇制が、実はおっかなくって近づきがたいものであるという事を実感させる《踏み絵ビラ》は、人間「的」天皇・皇室プアミリーのキャンペーンによる民主主義平和憲法下の象徴天皇定着確立への本質的反対行動なのです。

私は、おりにふれ天皇と天皇制を話題にする様な、そしてそれは必然的に私たちと天皇とのキョリを感じさせ、不快感を味わさせる様な、そんな行動を、もっと工夫してみたいと思います。

《踏み絵ビラ》に反対した人も、きっとなぜ反対したのかその心情をよく考えてみれば「自然な菊タブー」―天皇と天皇制をささえる柱のひとつに思いあたるのではないでしょうか。それを破壊するための行動をいっしょにやりたいものです。

（加賀爪弘行　31歳　印刷工）

《踏み絵》ビラへの 私の意見 ③

個人としての裕仁を解放することが

踏み絵ビラについて一言。こうした議論が紙上で展開されるというのはとてもよいですね。ところで私としては、裕仁さんであれ、誰であれ、写真を踏んで済ぶという気にはなれません。踏み絵ビラに提出されている方の文章を読むと、制度としての天皇、天皇制と人間としてのヒロヒトがゴッチャになっているように思います。私は、天皇制というものを廃することで日本に住む人びとを、また何らかの理由で日本に関わっている人を無理矢理（といっても強制が目に見える形ではなく）一つの枠のなかにまとめあげてしまおう、枠のなかに入らぬ人は「敵」「汚ないもの」と見なす、という課題を壊したいと思っていますが、それはむしろ個人ヒロヒトを逆に解放するという意味で考えたいと思います。今のヒロヒトやヒロノミヤは、個人としての生活が失われているのだから、逆にここから彼らを奪い返してやるという気持ちで進むのがよいと、私は思っています。そうした意味で、人間としてのヒロヒトまでも否定するような踏み絵ビラには反対です。

（川久保　郁）

天皇がいったい、なんぼのもんや！

私は御名御璽ビラがまいた一人なのですが、まく時にはワクワクしたりしてなかなか楽しい思いをしました。たぜかというと、このビラは遊び心に富んでいるからです。江戸時代、世の権力者をからかった川柳や狂歌が巷に流れたのと同じようなものに私は受けこりました。

ところが、このビラにおいて御名御璽を使用したということでガサが入ったり、またこのビラに対する社会的な意見があると聞いて、ちょっとばかりびっくりしました。御名御璽たんという単なる記号をパロディとして使ったということで、ガサが入るのですから、今の言論の自由などというものはやっぱりまやかしなんやなあと思いました。特に御名御璽を使用したということがこんなに問題になるということは、テンノウゆうもんになんか特別な意味を持たせようという、くらい魂胆があるような気がして、私はテンノウが一体なんぼのもんや！と思わずどなりたくなってしまいました。タレントや政治家がからかいの対象になっても、ありゃ有名税や、などといっておもしろがっても、テンノウに対するものはしっかり弾圧してくるというのはなんとなくおかしいように思います。

そして、テンノウに対するいわれのない尊敬の心がその反対をなす人々に対するいわれのない差別の心と表裏一体をなしているような気がしてならないのですが…。

（佐田国君江）

天皇の権威をどんどん軽くしていくことが…

二月十日号に「ふみ絵」批判がでていました。私も、正月にささやかながら「ふみ絵」遊びをしたものですが、天皇制批判をされる方から出てきた批判に、あらためて天皇感情の根深さを感じました。批判は、天皇も人、人の好嫌をふみつけにするようなことはしてはならないということでした。

しかし、あえて反論させていただくなら、天皇の好嫌は天皇の好嫌なのです。天皇も人といういい方には同意できません。天皇は人なのです。そして、人は天皇になってはならないと思います。戦後天皇は神をやめて人間宣言しましたが、なぜ、あたりまえの人にならず、人の天皇になってしまったのでしょうか。また、神たる天皇ですら戦前の軍・政に利用されたものなら、人たる天皇を危険な政治に利用するぐらいたやすいことではないでしょうか。

天皇は神をやめただけで、天皇をやめなかった。だからこそ、私はお二人の批判を見ても心痛まないのです。「天皇の為」にと、多くの人々が死んでいったならば、「天皇の為」を利用した者を批判すると同時に、天皇の存在をまた無くしていかなければならないのではないでしょうか。天皇をやめず、天皇であり続ける人に、私が、何の配慮する必要があるのでしょう。

配慮したことは、ふみ絵に激怒する人に見つからないように、こそこそとまいたぐらいです。正々堂々という言葉がありますが、天皇は不正堂々としています。国権の最高機関の議長すら、天皇の為には、階段後ろ降りなどという非人間的行為がうまくできないといって交代させられてしまうのです。天皇の権威を傷つけることに怒る人が、大勢いることも確かです。しかし、怒ればよい。怒る人は堂々としているのです。天皇は不正堂々としているからです。

天皇であるところの老人に惜しみはなくても、人である私が天皇ふみ絵してもいいのではないかと思います。怒る人の怒りよりも、天皇を軽んじた非礼の方が大切だと思います。天皇の権威を軽く軽くどんどん軽くすることが、人々の権威を高めることではないでしょうか。人は天皇になってはならないというのは、いいかえれば、人は天皇をつくってはならないということです。一人の人間を非人間的存在にするところによって、万人を非人間的不幸に追いやることを合理化した、利用した、天皇制を私たちはいつまで持ち続けなければならないのでしょうか。

堂々とした批判が必要なのは、おっしゃる通りですが、年に一度の正月休みに正月気分をあじわいに行った神社で、ちょっとスリルを味わうためにWRIの人がくれた「ふみ絵」遊びをして、はっきり言って、何が悪い！といいたくなって……。

（T）

反論

Kさん・MTさん・OKさんへ

本稿は社タイの都合で掲載されなかった投稿だが、同社の厚意で、ここに掲載する。筆者の了知をこう。

2/10の社タイをみてても腹が立った。はっきり言ってこんな考え方の人達が貴紙を読んでいたり、運動周辺にいるかと思うだけでゾッとします。

3人に対する反論をしたいと思います。編集部は「相手の生き方、立場を尊重した批判を…」としていますが、とてもこんな人々の立場を尊重しかねます。

Kさんへ　僕は、踏み絵ビラの記事を見てとても痛快でした。Kさんは憲法で9条が世界に誇れるスバラシイものだと云っていますが、天皇を象徴化した個所も同様に世界に誇れるとお思いですか。？　また府警に対する態度が不謹慎だときめつけていますが、人を弾圧する為に存在している警察をチヤカしたらダメだと云うのですか。（警察官なんか差別されりゃいいんだ！）僕は手に入れた二枚のうち一枚は壁にグサリと画鋲ではりつけ、一枚はケツフキとして使い、踏みにじって、とても楽しかった。

「大切なのは、戦争に行かない決意だ」と書いていますがそのことがなぜ天皇を傷つける行為と矛盾対立するのですか。両方やればいいじゃないか。真の平和主義は、戦争を起した人を免罪せず、戦争者に対する憎しみを忘れず持ち続ける事です。甘ったれるな。チョッパリ野郎！　全く腹が立つぜ。天皇に関するタブーは破ることが重要なんだ!!

次に　MTへ

天皇を踏む事に腹立ちをおぼえる奴がいたら、そんな奴は勝手に腹を立ててりゃいいのさ。

天皇が人間宣言したのと、象徴になったのとは全く別の事であって、何故刑務所に行かず、象徴として御殿にふんぞり返ってるのか　問うてみろ！「象徴になられ、宣言なさって」と書いてるが、いまだに天皇を同一の人間として扱ってないんじゃないか。どうして敬語を使うんだ!!奴が何かいい事した尊敬すべき人物か？

キリシタン迫害は罪のない人を迫害（次頁へ）

《踏み絵》ビラへの 私の意見 ④

社会タイムス　未掲載投書

したが、踏み絵させて天皇主義者が迫害になるなら大歓迎だ。天皇主義者は迫害されりゃいいし、あなたは、天皇踏んで自分の魂を汚したと思うその生き様をこそ、改めるべきだ。写真を踏めない様なら、まだその天皇批判は充分じゃない。天皇攻撃は手ぬるを極めて欲しいよ。

「警察をシゲキするのでは」と書いてるが、警察をシゲキしない運動が果して成立するのか？ ストひとつ打ったって警察はシゲキされるんだぞ！ 踏み絵ビラ賛同記事がのってる社タイをおおっぴらに拡げて読めない様なら、そのくこそ意識変革が必要なんだ。

「皆が共鳴できる云々」としているが、商業紙みたいに、「偏向せず中立に」なればいいのか？ そんな社タイなら存在価値がないよ！（右も左も共鳴できる紙面にしろ、ということか）「年寄りとか皆が読める…」としているが、自分の天皇主義を年のせいにしないで欲しい。年寄りでも天皇を憎んでる人は、僕の周りに沢山いる。

あなたが天皇を擁護したいのは、たぶんあなたが反動的人間だからだ。

さいごに **OKさんへ ——**

天皇制との闘いは、いろんな戦術があっていいんじゃないか。あなたは自分達の闘い方が正攻法だと思ってるらしいが、自分達だけを絶善化していないか。どんな闘い方が正攻法か、誰にも決められない。それぞれの団体が、自分達の闘い方を正攻法とするのはそれでよいが、一つの団体が一つの闘い方だけでなく、幾つもの方法を使っていいんじゃないか。

「学校における日の丸、君が代の攻撃を一つ一つ…」とあるが、それではいつまでも受身ですよ。天皇踏み絵ビラの様に攻撃的なものと、両方やりゃいいんだよ。

あなた達は、本当は保守的で、同じ戦術を10年20年もやってる。新味がない。人を魅きつけるものがないよ。闘いが拡がらない。

ヒロヒトが踏んづけられた位で、ガタガタぬかすんじゃねえ！ どいつもこいつも fuck off!
fuck the system! fuck religion! fuck the lots of zap!!
（そんなていたらくだから、敗戦まで天皇暗殺を企てた日本人は一人もいやしなかったのさ。共産主義者もそうだ。結局、立ち上ったのは我が同胞！だけだ）（鄙明一）

落書や天皇制諷刺は民衆の反権力の表現手段

被差別部落の民衆や在日朝鮮・韓国人、そして障害者に対する恐ろしい差別落書がつぎつぎと発見されている。それはその被差別の人びとを脅迫し虐殺をよびかける酷い内容のものだ。それへの糾弾闘争がつづけられているが、一般の市民はいささかの関心もしめさない。ところが、天皇が諷刺されると、すぐ警察がトンデクル、とはどういうことだ。

ある法廷で、すでに部落差別は本質的にはなくなっているという証人に、この差別落書をしめして差別の現実を示したところ、彼は「差別落書ではなく、落書そのものが悪いので、落書をなくせばよい」と答えた。ぼくらはその証言に驚いたし、恐かった。落書をなくしてはいけないのだ。表現手段を奪われた大衆が、これまで権力者に批判をいい、抵抗してきたのが、落書だった。

戦時中のあの絶対的な権力による抑圧と弾圧のもとでも、権力（天皇）への諷刺の落書は書きつづけられた。だから落書は民衆の反権力の表現手段だったのだ。わたしたちは差別落書を許すことはできないが、落書そのものをなくしてはいけない。けれども、今ごろ、どんどん管理がすすみ、清潔になって、落書ができるところが狭められている。それだけ、権力の支配と管理が、わたしたちの生活のあらゆる場に侵入してきているということだ。踏絵ビラのパロディ精神は、この大衆の落書のそれにつながる。差別落書を平気で許しておいて、踏絵ビラを許さないというありようは、恐ろしい。

天皇の死ぬ日が近づいている。その日、どんな報道がされ、放送されるのだろう。これまでの万博やオリンピックなどのときの報道や放送のありようから、これがどんなものか予想される。そしてそれによって国民のすべてがどんな意識操作されるか。これにクサビを打つ、どのようなたたかいが、人民の側に用意されているのだろうか。皆無の現状だ。踏絵ビラは、ほんとにささやかな、ひとつの抵抗だ。このようなことかもしかできないのか、と腹だたしいほどだ。でもこうした抵抗の行為がどれほどささやかだろうと大切なことだと思う。（村田　拓）

本当に踏まれている人々のこと考えて下さい

僕はちょうど団塊の世代というのに入るんだけど、僕の親の世代つまり、大平洋戦争をモロに体験した人たちの多くが「あの時は仕方なかった」「自由にモノが言えなかった」と、言いわけがましく自分の戦争責任を免罪しようとする。

世界に「誇る」平和憲法、とくに不戦と、あらゆる軍備の拒否を宣言した「第九条」の一方で、象徴天皇を認めていくだらしなさは自らの戦争責任を免罪する、ここのところと見事に共通したものといえるでしょう（もちろん、僕も戦後世代として責任はまぬがれませんが）。

天皇の戦争責任は記録映画としての「東京裁判」を見てもわかりますが、天皇が戦犯にならなかったのは、あくまでもそれが占領軍の政治的判断によるものであることです。戦勝国が敗戦国を裁くには「強者の論理」というやっかいなものがつきまとう。

もし、日本の植民主義を、中国の、朝鮮の、アジアの侵略された側が厳いたとすれば、天皇に間違いなく裁判が下されたでしょう。

天皇が正真正銘の「戦犯」であることは、だれよりも、天皇、そして支配者の側が一番よく知っている。だからこそ、戦後四十年、戦後処理にふれる発言は、七〇年代に入って、米国、そして欧州と、戦勝国へ行って「おことば」をのべてきただけなのです。なにゆえ、侵略した「アジア」へ真っ先に行かないか。そこでは、いまなお天皇が「戦争の最高責任者」として憎悪の対象としてあるからであり、敗国の民衆が「侵略行為を謝罪するなら天皇自らソウルへ来い」というのはあたり前のことだと思います。

象徴天皇制を認めた「日本国憲法」をアジアの民衆は、天皇制支配体制が今も姿、形を変えて、自分たちに刃をつきつけているととらえているにちがいない。だからこそ、日本国内とはくらべものにならないほどの焦燥で、二年前、日本の教科書の問題をめぐって大きな抗議の声が起こったのではないでしょうか。

「日本国憲法」のワク内で天皇を、とする意見に対してこう言いたいと思います。

一個の人間が国の象徴となるという気色の悪さは指摘するまでもありませんが、今日、その「象徴」の存在とはどのようなものでしょうか。たとえば一昨年の大阪での御堂筋パレードでは、皇太子が来阪するというので、大阪の梅田やナンバの路上で生活する人々が、まるでゴミ同様にして扱われ写真、指紋までとられています。天皇、皇族の行くさきさきでこのように、一人一人の人間が「貴い」お方に見苦しいものとして排除される。また愛知でも高校総体の際、地元の高校生たちは連日、行進の練習にあけくれ、「コラッ高い所にあがるな！」と下ろされていたり、こんなことは天皇にからんで山ほどあります。

「日本国憲法」による「象徴」によって、これまた「日本国憲法」で認められた「個人の自由・平等の権利」が犯されている。これこそ「象徴天皇制」が「日本国憲法」を「冒トク」するものではないでしょうか。

「天皇制批判は堂々とやればよい」との声もありました。そう、禁制はできません。だけど無動はさせたい、というのが今日の権力ではないでしょうか（マスコミなどを通しての大っぴらな批判はもちろんスプーですが）。

ためしに、どこかの街頭で「象徴天皇制を廃止せよ！」なんてビラをまこうものなら、一瞬にして権力のふくろだたきに合うのはまずまちがいないでしょう。

このふみ絵ビラをめぐっての読者同士の討論も日本人同士の意見交換としてしか現在のところ不可能だと思います。

社タイにも在日朝鮮人の方から反論が寄せられています。そこに書かれた日本人への、そして天皇への怨りの大きさには圧倒されます。それは「批判している側も日本人の一人であり、決して、私たちの立場には立てない」という意味で、双方の討論を根底から力タガタにしてしまうほどのものです。

私たちは、こういう抑圧される人びとの間に、それほど深い断絶があることをまずおさえる必要があるでしょう。

このハ踏み絵ビラの問題を通してあらためてわかったことは、抑圧され、差別され生きてきた人は、過去を決して忘れないし、現在をも抑圧と差別の中に生き、その痛さを自らの感覚を研ぐようにして生きているということでした。

僕が今、言えることは

そんな人々とあなたは、向き合

次頁上段へ

⑤ 3/3 社会タイムス →

ってますか。そして
向き合えますか、そして
じゃあ、もう少し近くへ寄って
行って下さい。
自分の位置と相手の位置とが手
を伸ばせばふれるところまで。
これは僕、ぶたこしいさむの問
題です。（ふ）

《踏み絵》ビラへの ⑥ 私の意見

イオム通信 2893
↓

ハイケイヒロヒトぱん

1

まず、お断り・この題・『拝啓・天皇陛下』とせず、ヒロヒトぱんと心易く名前で呼ぶのは、あんたぱんを〝人間あつかい〟したいと、思うてるからだっせ。

そやけどヒロヒトぱん、あんたはオバケ人間・特殊人間や。もし人間やったらあんたはオバケ人間・特殊人間や。「人非人（にんぴにん）」いう言葉があるけど、あんたはそれや。「人ニ非ザル人」や。

いったいあんたは、自分で「自分をどう思うてる」ねん。

2

ぼくがこうなると、あんたが答えるかわりに、あんたのピイキの引倒し」善良な国民さんが、口をそろえて一せいに、「天皇かて、人間や」と、叫び出すのは判ってます。

足の弱なった皇后ぱんをいたわって、孫たちには目を細うして、待従や女官におやさしく、けんび鏡のぞいて学者のふりしてるときが一番あしあわせそう……と、このごろヤケに目立ようになった「天皇さんのことをかいてる本やアルバム」をみると書いてある。

お、そうやろな、とぼくかて思うんや。あんた個人は、そんなおひとらしいな、と。

そやけどあんたは、それだけでは済まへん！ あんたはまず何というても天皇なんやろ。

3

あんた知ってはるかいな。たとえば在日の朝鮮人朴斗会さんや台湾人林歳德さんの裁判。戦前は一視同仁とか云うてムリヤリ日本人にし、戦後はドお前は外国人や。もう知らん。

兵隊・軍属になって戦死したり、戦犯で厳後処刑されたり服役した人もある。とゞのつまりはみんなあんたの命令で、あんたの為にやったんや。せめて一般日本人並みの扱いをと、血の滲むがし歯ぎしりしてるその人たちに、もしあんたが人間やったら、例え一声でも云わんとおれん筈や。

「ほんまに申しわけない。許して下さい。」

「補償ぐらいで済めへんことや。政府ができるだけ配慮してほしい」……

「既源の足しに、皇室費を削ってくれてよい…」

……それを他人事のように知らんぷりできる厚顔無恥、やさしさどころか冷酷無慈、とてもとてもふつうの人間やない。

4

と、こういうとまた、あんたの「ピイキの引倒し」が、のさばり出てこう云うやろ。（ハー天皇も人間や、と云いたいから、あんたをますます人非人に仕立てるのがこの人たちや。）

「天皇さんは、憲法で日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴という地位やから、そんな政治的なことに口出しなさらへんし、でけへんことになってる…」

そうや、その通り！ 天皇が政治に介入したらあかんのは当り前。肝じんなことは、政治に引ぬまれ一部に利用される時、ぎっぱりイヤヤと自分でいう責任が、天皇にあるということや。

（上段左端より）

（次頁上段へ）

このことを、まずはっきりさせといて、その上で、あんたがほんまに人間なら、あの敗戦戦中、数えきれぬほど犯したあやまちを、すこしでもつぐなおうとすることが、何よりも天皇のつとめやないか。それでこそ非政治の人間天皇や。

5

ところでこれは「ヒイキの引倒し」さんに聞いてみたいんやけどーつい昨年の九月のこと、ほら、(光州事件で血まみれのにおいもぷんぷんさせた)全斗煥大統領が来日しはったときの、「官々」(「官さんがそやないで。政府と総官ぼっかで、「民」はおりやった)あげての大歓迎、その一役を買うて天皇が、しゃべったりやったりしたことは、「政治」と全然関係なしで、影響なんかもあらへんと思ってはりますのやろか。

もうひとつ、ぼくには絶対忘れられんーあんたの一と言がどんな政治的力になるか、「あんたが三里塚開港を早め、強行させる拍車をかけたんや」ということがーあるねん。

九年前の76年秋、例年宮内庁が開く園遊会での事。先導の合図通り三里塚公団総裁の前に足をとめたあんたが、「大へん苦労やろけど、しっかりやって下さい」云々と云うたんを憶できいてた首相の福田が大恐懼。「陛下のお思召しや、どうあっても年内開港を。ムリなら年度末三月中には絶対!」と云うわけで、しゃにむに開港へと拍車がかかった。そして4月6日鉄塔除去の強行のあと、8日、ぼくの若い友人東山薫君が、ガス銃に狙撃されて後頭部重傷、危篤やがて死!

あんたにその気があったか無かったかそんなこと問題やない。結果としてこれが政治的口出しや無うて、いったい何や!

もういまは、こんなこと位やない。あんたの〝一挙一動〟が、みんな「政治」になってしまとるのに、まるで平気の知らんふりで、またまた戦前どうことも考えることを。あんたはやり出しとるんやで。

あんたど一族が、国体や植樹祭やと出歩くたびに、ぼくま何が起こってるか、眼玉ひらいて、よう見てみィ。

6

さて質問で、あんたを「人間扱いしたい」とぼくが云うたのは、右のような情況の中でもう一刻もはやく、ともかく天皇を「人間へと」取戻さんとアカン。そやないと、あんたの身の上にもぼくらみんなにも、間違いなく今日明日、おそろしいせの中が出来上ってしまう!と思うてるからや。

というて、あんたが人間に戻るんは、あんたが決心さえすればへ天皇さになるやろけど何もムズカシイことやない。

たゞ、あんたが、いまやってるロボットみたいなことに気がついて、あんたの頭でよう考え、あんた自身の声で、はっきりと「イヤヤ・アカン」と云うたらシマイや!!

(そこからいっぺんに緒口がほぐれて、あんたがもう二度とあやまちを繰返えさず、今迄にやってきた犯罪をつぐなうためには、「あんたと天皇制」との関係をどうしたらエエんか判ってくるやろ)

7

そやけど「あんたと天皇制」の問題は、あんただけにあるんやない。

あんたが「人非人」「非人間」なのは、あんた自身のせいにちがいないけど、それを見のがし支えながら、更にあんたを傀って自動きできんようにさせてるーそれが「ヒイキの引き倒しいなんや。

へいうまでもないけど、ここで云う「ヒイキの引倒し」とは、君が代・日の丸の天皇崇拝右翼だけでなく、「天皇?無うてもエエし、いてもどういうこともない」「そんなこと判らん、どうでもエエわ」の無関心質定派までーどこに大部分を占める!『天皇は国の象徴としてその枠内で扱われるべきです』『戦後、天皇が日本国の象徴となられ人間宣言されて本当に良かった』など、趣味は天皇(象徴崇拝家たち…)云うならば『みんなの内部にひそむこの〈天皇制〉』、それの屈折したあらわれとしての、この「ヒイキの引倒し」に、ぼくら自身が気付き、自分の問題としないかぎり「ぼくら」そやから「あんた」の解放もない!

8

としたら、「あんたと天皇制」の問題の、ぼくらの部分はぼくらで何とかせんならん。

と云うてもピンからキリまでいろいろの「ヒイキの引倒し」相手に、何をどうしたらエエ?

…と云うところから、思いついて、ついこの頃の〈ぶみ絵〉の〈フダ〉ばらまき全国一せい共同行動ーいうんが出てきたんやった。

まちがえたらアカンでェ、あれはヒロヒトはんを相手にしたんやない。へーあんたナンボ踏まれても痛うも痒うもない若や。ところがそれを大サワギしたのは…) つまり、「ヒイキの引倒し」ーぼくらの内部の天皇制ーこそが、〈踏み絵〉のオフダ〉の相手やったんや。

なあ、ヒロヒトはん

「天皇制」は、あんたにもぼくらにも今すぐなくしてしまわんとー明日あさってではエライことになるーバケモンみたいな、敵や。そやから〈踏み絵〉はその敵への、あんたとの「共闘」のつもりなんやで。

そして〈踏み絵〉が、くらがりから明るみへ引っぱり出した「ヒイキの引倒し」の一切合既。その中にかくれて、あんたを縛りつけていたぼくらの中の天皇制。これをひとつひとつとりあげて、打ち倒していくんがぼく自身の、いまからの闘い!いうことや!〈踏み絵〉については又書くけど、それで、あんたは、さあ、いったいどうする!!

《踏み絵》ビラへの 私の意見 ⑰

〈手紙〉などより

大家は感覚的についていけない…

▼前略。年が明けぬうちに大勢の才客サンがみえて、接待やら遊びにまきこむやら、大ヘンだったですね。猫ちゃんも大ふくとうで遊んだとか。近ごろお正月のタコあげ羽つきが減ったというより、殆どないありさまの中で、珍しいお正月遊びのお話でした。私の方は……などで遊びをとられに新年。1/3、新年会でそちらの話を報告しました。その席でCFが「例のオフダはプレミアがつき、今に高く売れる」。欲ばりな私は、どのくらいまで高価になるか一枚保存して楽しみに待つことにしました。

私は正直いって、オフダにも踏むことにも興味がありません。天皇は私の感覚とは乖離い、頭に浮かぶ事もない存在です。

でも、現実に大きく存在するおそろしい人だから、という人に「事件のことを書いてくれるように」云いましたら、「川文でちょっと書くと大家は誤解する。」それはやはり下品でいけないことだからケイサツにふみこまれるのだ。と早とちりし右傾化や自己規制をかえってつよめる結果になる。だからこういうことはわかるくにどんどクチコミで伝え、みんなでひそかにファイトをもやせば…」とか。大家は感覚的についていけない遊び、との意見でした。

若い男性に2枚プレゼントしたら1/7の成人式の日、明治神宮前を通りかゝり、つい振袖乙女にみとれてオフダを落してしまったら、その上を振袖たちの美しい草履がどんどん踏みつけて通り、拾うに拾えずプレミア付きの財産をフイにした、と残念がっていました。

HI

天下一の面白い事件…

▼大逆不敬（オオサカフケイ）の手入れは早かった。白井さんのニュースによると第一信から四信まであって、その第三信（1/9発信）で初めて内容を明し、相当尚送した特定申込者のみに送ったというが、発送着信二～三日後の1/9の喜、捜索だとか。Rが知るところとなったのは、やはり送り先からの情報漏れだろう。活字になったものは「完全秘匿」は難しい。…人は噂切るか、知らぬ間に情報を提供しているとの認識も含めて、考え直す必要もあるかもしれぬ。仲間と思えば誰が手抜ったとか喋したのは誰かと想成るが、人の集団はしょせんそういうものよ、とある線で割切れば腹も立つまいて。…誰役疑うは何となく気乗りせず、せんないことよ。

それにしても、早速めしたたかな攻めの哲学、天晴れというほかない。判例寺ひっつり返してもくだんの条文14条を適用したケース見当らず、とうてい公判は無理。騒げばマスコミにもどんどん出て、政府自民や宮内庁、K等のかくしたがる方向に反することになる。とにかく天下一の面白い事件であること必定。

C